

# 会派研究研修報告書

◇ 5月25日（土）

第14回マニフェスト大賞キックオフ大会

主催 ローカル・マニフェスト推進連盟

マニフェスト大賞実行委員会

2019年 6月

知多市議会「市民クラブ」

市民クラブ研究研修報告書

日 時	令和元年5月25日（土）午後0時30分から午後5時40分まで
研究研修場所	名古屋市中村区平池町4-60-6 愛知大学名古屋キャンパス
研究研修項目	第14回マニフェスト大賞キックオフ大会
参 加 者	市民クラブ（古俣泰浩、藤井貴範）
研究研修内容	<p>【第1部】住民意見をカタチにする～新しい議会と住民の関係&amp;先進議会の裏側～</p> <p>(1) 開会挨拶（可児市議会議員・LM推進連盟共同代表 川上文浩氏、早稲田大学名誉教授・早稲田大学マニフェスト研究所顧問 北川正恭氏</p> <p>(2) 「若者×議会 ～高校生が議会へ請願書～」(講師：松本市議会議員 上條俊道氏)</p> <p>松本市議会では、平成27年から若者と議員の交流事業を実施している。そうした中で、高校生から2件の請願が提出され、いずれも採択された。</p> <p>(3) 「議会改革の舞台裏」(講師：可児市議会事務局長 松倉良典氏)</p> <p>可児市議会では、平成23年に議会に関する市民アンケートを実施した結果、議員の思いと世間の考えに隔たりが大きいことが明らかとなった。これをきっかけとして、議会報告会のグループワーク形式での実施など、様々な議会改革を行い、マニフェスト大賞を受賞するほどの成果を上げた。</p> <p>(4)-1 「議会×若者の可能性」(講師：可児市議会高校生議会参加者 立命館大学3年 田口裕斗氏)</p> <p>可児市では、実際の議場で高校生の議員が登壇し、執行部側との質疑応答を実施するなどの「高校生議会」を開催している。当事者として取り組んだ講師は、自分が市民の一人であることを実感でき、また、地域の魅力に気づくことで、政治、まちづくりへの参加意欲が湧いたとのことであった。</p> <p>(4)-2 「若者議会が活躍できるまち～世代のリレーができるまち～」(講師：第4期新城市若者議会議長 瀬野航太氏、同副議長 伊藤早希氏)</p> <p>新城市では、市内の若者が立ち上げた「新城市若者政策ワーキング」から「若者議会」が生まれ、地域課題の解決に様々な成果を上げている。市側も1,000万円の予算を計上し、また若者議会条例を制定するなど積極的に支援している。</p> <p>(5) 「犬山発・新しい民主主義への取組～市民フリースピーチ制度～」(講師：犬山市議会議長 ビアンキ・アンソニー氏、犬山市議会事務局 粥川仁也氏)</p> <p>犬山市議会では、議員同士の議論を政策立案・政策提言につなげることを重視している。そのため、議員間討議を促進するような仕組みを構築している。また、市民フリースピーチ制度を導入しており、市民が誰でも議場で発言できる。</p>

【第2部】地域課題に対する新しい切り口を学ぶ

(1) 「市民の関心呼び込む 横浜自民党のマニフェストの取り組み」(講師：自民党横浜市議員団団長・横浜市連政調会長 古川直季氏)

横浜自民党では、4年ごとにマニフェスト集を作成している。この結果、議員の政策力がアップし、市民との距離が近くなった。また、議員提案の条例が4年で15本制定された。

(2) 「これからの公共施設の維持管理について ～水道事業事例などからの検証～」(講師：EY新日本有限責任監査法人 インフラストラクチャー・アドバイザーグループ 福田健一郎氏)

水道料金収入の減少、老朽化した水道管等の維持コストの増加により、多くの自治体で水道事業の経営状態の悪化が見込まれることから、90パーセント以上の自治体で平均36パーセントの水道料金値上げが必要となる。

水道コンセッション方式は浜松市などで導入されているが、公営に戻った事例もある。導入には住民を巻き込んだ議論が必要である。

(3) 「総括・新時代の善政競争のあり方 ～多様性に満ちた地方自治とは～」(講師：北川正恭氏)

所 感

可児市や新城市など、新しい議会の姿を模索する先進市の取り組みは、少子化・選挙権年齢引き下げのもと若者に対する主権者教育の観点から重要であると感じた。また、政治に参画する機会が少ないとされる若者や女性、特に、子育て世代のママさん等の生の声等、多様な世代から直接意見を聴取し、施策に反映していくことが議会の使命と再認識できた。

若者の政治離れと言われているが、若者が離れていっているのではなく、政治が若者から離れていっているので乖離ができていることを松本市や新城市の事例で理解することができた。これら2市のように議会が若者のところに行き、対話や交流をすることで、若者が行政や議会に興味を持ち、選挙にも参加する意思が出てくるというよい事例であった。

政治に無関心な世代がふえ、議員選挙が低投票率にあえぐ中、多種多様な価値観を持つ住民の意見を積極的に聴取し、対話を重ね、課題解決につなげていくことが市民から負託を受けた議員の責務であり本来の姿である。シルバー民主主義と言われる現状から脱却し、将来に向けて、未来志向で新しい形の議会を構築していくことが議会改革の原点と議員一人ひとりがしっかりと認識し、本市においても積極的に改革に取り組んでいきたい。